

ろっこうさん そうげん い ものかんさつ 六甲山の草原で生き物観察



兵庫県神戸市と芦屋市の間にある六甲山の東お多福山では、人の手によってササが刈り取られ、秋にはススキの草原が広がり、虫の声が聞こえます。山の上の草原にはどんな生き物がいるのか調べてみました。(生き物観察の参考にしてみてください)



▲人の手で刈取りが行われている草原

1. 山に登る時に準備するもの(服装・持ち物等)

山登りでは両手を空けるためリュック(ザック)を使おう

汗をかいたときに温度調節できる服

転倒によるケガや虫刺され防止のため長ズボンを着用しよう



帽子は暑さよけと、頭を守るために必ず着用しよう



生き物を捕まえる網
生き物を観察するケース
手を守る軍手



靴は山登りができるトレッキングシューズがオススメ

熱中症対策



飲み物



塩タブレット等

記録用



カメラ



鉛筆

持ち運べるノート

2. 東お多福山の草原で観察できた生き物を紹介

(9月25日観察)



イナゴモドキ

田んぼでよくみるイナゴとは別種。イナゴモドキは山地やススキなどが生える自然度の高い草原に生息します。



ショウリョウバッタモドキ

平地から丘陵地のススキ等が生える草原に生息します。ショウリョウバッタほど数は多くありません。



アシグロツユムシ

山地の林や草丈の高い草原に生息します。後肢が褐色で、触覚が黒色なのが他のツユムシとの区別ポイントです。



シマヘビ

無毒のヘビ。トカゲや昆虫などを食べます。ヘビがいるということは、たくさん餌となる生き物がいる証です。



オオカマキリ

大型のカマキリで、背の高い植物の葉の上や花の近くでバッタやチョウ等の獲物を待ち構えています。

東お多福山では普段見られない生き物をたくさん観察できました。

東お多福山を含む六甲山は

瀬戸内海国立公園に指定

されています。

生き物の持ち帰りは

せず、観察したら

逃がしてあげてください。



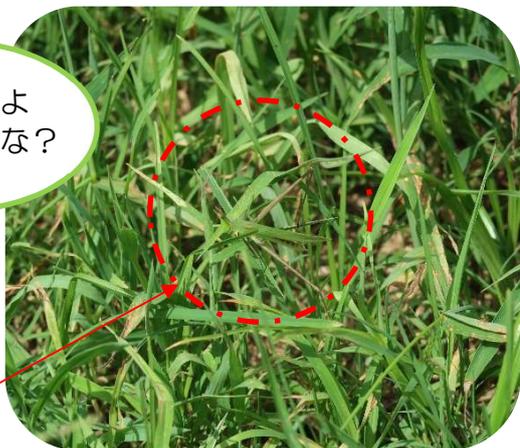
クイズ！バッタのなぜ？

Q. 『同じ種類のバッタでも違う色をしているのはなぜ？』

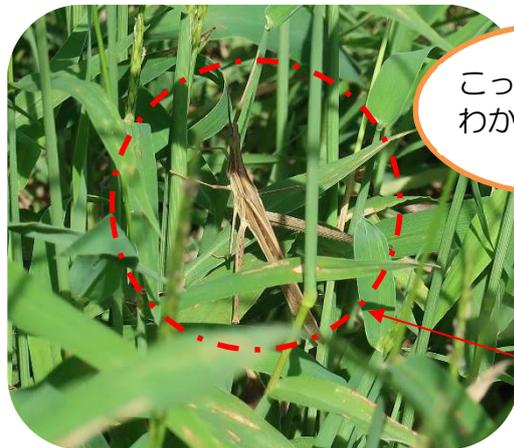


下の写真は、同じショウリョウバッタのオスですが、一方は体の色が緑色で、もう一方は褐色（茶色）です。なぜ同じ種類のバッタで、色が違うのでしょうか。

ここにいるよ
わかったかな？



こちらはすぐに
わかるね



A. 青々とした草むらにいるバッタは、体の色を緑色にすることで周りに紛れて、敵に見つかりにくくしています。褐色（茶色）のバッタは青々とした場所では自立しますが、ススキ草原のような草が枯れて茶色になった環境では見つかりにくいのです。このように周りの自然や模様に合わせて、体の色を変えて自立たなくすることを、「保護色」といいます。



Q. バッタとイナゴってなにが違うの？

前足の付け根を見るとイナゴは突起がありますがバッタはありません。イナゴモドキは突起がないので、イナゴではなくバッタの仲間です。

ハネナガイナゴ



ショウリョウバッタ



イナゴモドキ



アクティブ・レンジャーを出前授業に呼んでみませんか？

この記事を書いた兵庫県南部・瀬戸内海側にある神戸自然保護官事務所の中村（なかむら）です。自然の中で遊ぶ出前授業も行っています。

↓↓興味のある方は、お気軽に下記までご相談ください↓↓

環境省 神戸自然保護官事務所 TEL:078-331-1146 FAX:078-331-1148
竹野自然保護官事務所 TEL:0796-47-0236 FAX:0796-47-0249

